



◆ 乳児エリア

外からスムーズに利用できる1階のスペースは、乳児でも安心して遊べるように建物内の半分を新規に長尺シートを施工します。シートの上は赤ちゃんが遊べるエリアと少し動きが出てきた子どもが遊べるエリアと分けており、赤ちゃんエリアは柔らかいベンチで囲み、その中にはクッション性のあるウレタンマットを敷き詰めます。この中でハイハイやつかまり立ちを始めた赤ちゃんが自由に遊べる環境を整えます。隣のエリアでは少し動きがでてきた子ども向けの遊具を充実させます。小さな子どもでも遊びの中で成長につながるエリアとなります。

◆ 多世代交流の場

建物内半分のスペースは既存のタイルの床のままで活用します。公園利用者や屋内施設の利用者の給水・軽食目的の場としての活用や、公園周辺を散歩している方の休息の場として開放することで、幅広い世代の方々に利用していただき遊び場がさらなる賑わいの場となります。

◆ 身体などに障がいがある子どもたちにとっても楽しめるあそび場

車いすに乗っていても建物内にスムーズにアクセスができるので、壁面にパネルあそびを設置して車いすでもみんなに交じって遊べるようにし、これからの時代に求められる分け隔てのないあそび場創りを目指します。



① ほふくエリア

ほふくエリアのまわりをベンチで囲むことで、安心して赤ちゃんがほふくするスペースを確保します。赤ちゃんは四つん這いやハイハイを通じて筋力を鍛え、自己認識を促進します。保護者は安全な環境の中で赤ちゃんとのコミュニケーションを深めることができます。



② ハイハイの丘

まわりをベンチで囲む事で安心して赤ちゃんのスペースが確保できます。クッションフロアと隣のスペースに年齢に応じたハイハイの丘を設置。あそびの中で筋力やバランス感覚が鍛えられます。また、行動の活性化に伴う好奇心の広がり、脳や精神的な発達につながります。



※イメージ

③ ノーチェの森1

大人気の滑り台のある森の木の遊具で、回遊性のあるデザインになっています。何度も遊べて保護者も安心して見守れる設計になっています。



④ パネル遊び

子ども達の好奇心や脳を刺激するパネルあそびは、手先を使うことで操作するスキルを鍛えることができます。また、パネルの高さを車いすで遊べる高さに設置しますので、車いすに乗ったまま遊ぶことができる遊具です。



⑤ ログテーブルベンチ

現在1階にはベンチが設置されていますが、軽食もとれようにテーブルベンチを2セット新設します。暖かみのある木のテーブルベンチで、親子やそれ以外の方にも休憩場所としてご利用いただけます。



⑥ 既存ベンチの再利用

既存のベンチはそのまま再利用します。子育て世代だけでなく、公園を利用する様々な方の憩いの場として、新たな出会いや賑わいを生む空間を目指します。



※イメージ

○ 授乳室

利用する保護者と赤ちゃんがより快適な時間が過ごせるように、壁の一部に木彫のパネルを施工し、明るく清潔感のある空間にします。



◆ 恐竜をモチーフにした幼児向け遊具

子ども達の興味をそそる恐竜をモチーフにした遊具「ディノワールドII」は、4つの運動スキルがアスレチック遊具としてバランスよく配置され、さらに回遊性を促す設計でサーキット運動を促し、あそびながら自然と心身を育むことができます。今回の整備のシンボル遊具のひとつで、愛着を持たれる存在になる遊具です。

◆ 静かにあそぶエリアと身体を動かすエリア

八角形内のカーペットフロアは「静」のあそびエリアとします。その中をベンチを用いて半分に区切り、広くスペースを確保したい遊びと落ち着いて遊ぶ空間に棲み分けをします。「動」のあそびエリアには複合遊具と魅力ある遊具を配置します。遊具の下には今の床材の上にもう1枚床材を重ねてクッション性を配慮しケガの軽減を図ります。また、床材の色を変えることで遊び回る場所と休息・見守り場所の区別を明確にします。「静」と「動」の遊具をフロア内に配置することで、年齢が離れている兄弟が同じ空間で遊ぶことができます。

◆ 大人の方も利用できるウェルネス遊具の設置

子ども以外の来館者にも利用できるウェルネス遊具を設置します。利用率の高い懸垂する遊具と、ベンチとしても使用する腹筋ベンチを設置します。子どもを見守りつつ、ちょっとした運動をしながら全体を見渡せるようにし、子育て世代以外の方も休憩場所として利用できるようにしています。



飾り棚が両サイドについています



内部への入口



▲ 内側にはベンチがあります



▲ 使用例
絵本や小物が置けます

① ノーチェ DEN

まるで木の中の秘密基地にいるような遊具「ノーチェ DEN」。友達とひそひそ話をしたり、空想や想像を広げたり、子ども達が好むこもりの場所となります。



② ノーチェままごとコーナー

子ども達の好むあそびは様々です。身体を動かすあそびだけでなく、じっくり静かにあそぶままごとの遊具を設置します。男女関係なく人気のあそびで、社会性やコミュニケーション・想像力を育む静的あそびになります。



③ PE サークルベンチ

エリアを区切る目的としても使用できる、組み換え可能なベンチ型遊具です。保護者や子ども達のベンチとしての役割はもちろん、平均台としても安全に利用することができますので、新たなあそびやゲームを生み出します。



④ ボールプール

収納可能な「ボールプール」を設置します。年齢に関係なく子ども達に人気の遊具です。



▲写真は1セット(12個使用)

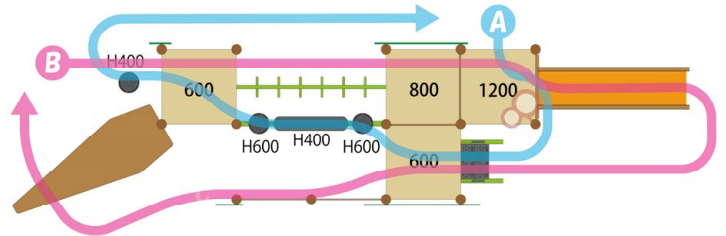
④ ゲームボックス

時期によって入れ替える遊具として「ゲームボックス」を設置します。箱型の遊具はプラスチックボルトで連結ができ、様々な形にカスタマイズできます。4つの運動スキルにもある「くぐる・はう・とぶ」等の多様なあそびが、シンプルな形の中から生み出されます。



⑤ ディノワールドII

回遊性のあるアスレチック遊具を設置します。福井県にとっても馴染みのある恐竜をモチーフにし、4つの運動スキルをバランスよく身につけることに特化した遊具です。回遊性だけでなくルートが多様に設定されていて、子ども達が飽きずに遊ぶことが可能です。



子どもたちの体力にあわせたサーキットコース



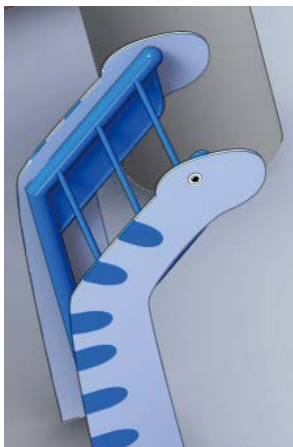
⑥ ディノスピン

恐竜時代の植物をモチーフにした回転遊具です。体の重心を移動させることで上手に回転させることができます。揺れながら回転するあそびは、脳の活性化にも繋がります。少しコツのいる回転遊具なので、親子でチャレンジして楽しむことができます。



⑦ リスコ

恐竜にも見えるマスコットのような遊具「リスコ」。フィンランドのデザイナー エール・アールニオ氏のデザインで、跨ったり抱きついたり上に乗ってみたい、フォトスポットとしても人気になる遊具です。



⑧ ぶら下がりバー

散歩の途中や見守りをする保護者の方に使ってほしい「ぶら下がりバー」。体力づくりの懸垂だけでなく、ぶら下がるだけでもストレッチができるので、疲れた身体のリフレッシュにもなります。



⑨ 腹筋ベンチ

見守りのためや休憩のベンチとしても利用することができる「腹筋ベンチ」。腹筋運動の機能がついているので、さりげなく運動を促し、子ども達を見守る隙間時間に使用してもらうことができます。



◆ 大迫力のエアスライダー

八角形のフロアには小学生まであそべる大型のエア遊具を配置。飛び跳ねるトランポリンのあそびだけでなく、2階建ての構成で滑り台あそびもできるようになっています。身体をたくさん動かす遊具ですが、飛び出さないように囲いをして安全性にも配慮しています。エア遊具は空気を抜くことで収納できるので、空間を多目的に使用することも可能です。

◆ クライミング遊具と卓球台

1階に設置されていたクライミング遊具と2階に設置されていた卓球台を3階に移設をします。あそびの要素にスポーツの要素も取り入れ、しっかりと楽しめるエリアを目指します。

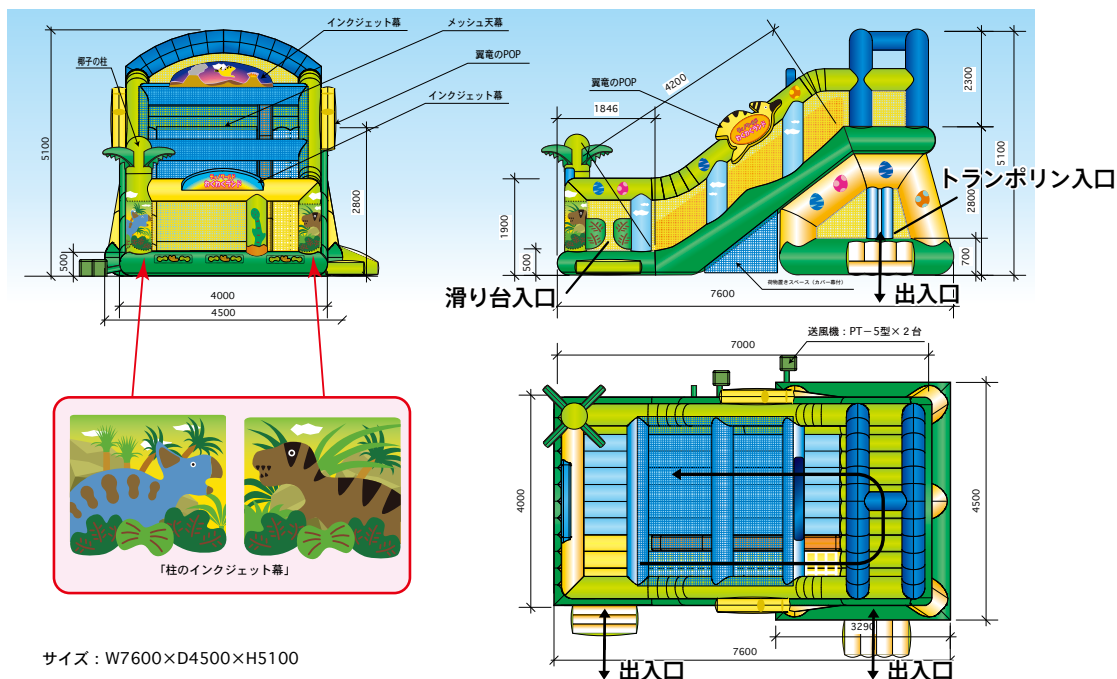
◆ 子ども達の新たな居場所

3階のエリアに小学生も使えるあそびを集中させることで、子ども達だけで訪れた時の安全安心な居場所を提供します。既存の窓付近のベンチは机として使用することもできるので、友達と一緒に宿題をしたりお絵描きをしたりと、今後もこのエリアがより有効的に活用されることを目指します。



【3階】小学生向け遊具

主な対象年齢：6-12歳



サイズ：W7600×D4500×H5100

① エアースライダー

2階の「ディノワールドII」と同じく、恐竜をモチーフにした大型エアー遊具で、サイズは縦7.6m、横4.5m、高さ5.1mと迫力のあるサイズです。エアーを抜く事で収納も可能です。飛び跳ねる行為は脳をゆらし身体の活性化を促し、使用できる年齢の幅も広いです。



② 1階のクライミング遊具を移設

クライミング遊具は子どもの身体的効果だけでなく、判断力や創造性も育むことができる優れた遊具です。既存のクライミング遊具をしっかりと有効利用し、より知的行動が活発になる小学生以上が中心の3階に移設します。



③ 2階の卓球台を移設

卓球も子ども達に人気のあるスポーツです。既存の卓球台を3階へ移設して引き続き活用します。友達同士や親子でのラリーを通じて、コミュニケーションをとりながらゲーム性を楽しんでいただけます。